

原田の

照天姫のかかみ石

平成六年十月五日号

原田妙善寺みよぜんの西、特別養護老人ホーム鑑石園かんせきの庭の中に、今もなおわき続けている池。この池には、遠く室町時代むろまちにまつわる恋物語が伝えられています。

今回は、この室町時代の恋物語について、鑑石園の庭を大切に管理している鑑石園の、首藤京子すどうさんに語っていただきました。

常陸国ひたち（今の茨城県のあたり）小栗城主判官おぐり満重みつしげは、応永三十年（一四二四年）関東管領足利持氏あしたしの大軍に城を囲まれました。

落城のとき、わずかな家来を連れて城を逃れた満重は途中、相模国さまみ（今の駿東郡小山町）の豪族横山大膳ただいぜんのところへ一時身を寄せました。

ある晩、大膳の策略によって家来を毒殺され、満重もまた危機を迎えました。しかし、大膳のやかたにいた照天姫に助けられ、名馬「鬼鹿毛おにかげ」に乗って照天姫とともに逃げる事ができました。

そのころ、原田の妙善寺に大空禪師たいくうという徳の高い僧がいました。息も絶え絶えの満重と照天姫は、この妙善寺に身を寄せ、禪師の手厚い看護に一命を取りとめることができました。



▶
かがみ石



した。

絶世の美人照天姫は、この妙善寺に隠れている間、清らかなわき水の中にある石に姿を映して、身なりを整えたということです。

やがて満重は小栗城を再興し、照天姫とむつまじく暮らしました。

首藤京子さん（鑑石園）

鑑石園の庭にあるわき水の池の中に、黒くて丸い石があります。これが水鏡になっていたんですね。市内の小中学生や老人クラブの人だけでなく、市外や県外からの見学者も訪れます。

昔は、わき水が池に流れ込む音がうるさいほどでしたが、最近は水の量が減ってきています。特にことしの夏（平成六年）は水位が低くなってしまっ、とうとう「かがみ石」が水面から顔を出してしまっ、たんですよ。